

核戦争もブッ飛ばす！これがワシらのデス・マッチ



石井聰互監督作品

①1584 KING 76L

© 1984 Designed by Terry Jonson and Tonny Lodorigez for Flamingo Studio Inc.

ディレクターズカンパニー十国映画株式会社
土田アサトシ
アートディレクター
キル・機軸作品

■物語

碁盤の目のような造成地が延々と広がる新興住宅地にトラックがやって来た。今日は小林家の引越しの日である。

小心で生真面目、家族をこよなく愛する優しい父・小林勝国は、20年間のローンで今、ようやく小さな庭付き一戸建て住宅を手に入れたのだ。

母・冴子は、天真爛漫で底抜けに明るい女性。但し、観葉植物を我が子のように可愛がるヘンな癖がある。

東大をめざして浪人中の息子・正樹は、受験勉強がたたってかいつも異様な迄に眼をギラつかせ、明けても暮れてもただひたすら暗記に没頭している。

娘のエリカは、アイドルタレントを夢見て、常に演技のマネゴトに熱中している女の子。なんだか普段の仕草まで芝居じみている。

こんな家族でも、勝国は心から彼らを愛している。郊外で健康的かつ明るい家庭を築きあげるのが彼の夢だったのだ。新居の前に家族と共に立った時、勝国の胸は充足感でいっぱいだった。そして翌日から、勝国はイソイソと健康器具等を買ひ込み、彼が望んだ理想的な家族設計を実行に移して行く。冴子たちも新しい生活に心なしか浮き立っているようだ……。

そんなある日、勝国の兄の家を追い出された祖父・寿国が舞い込んで来た。頑健で愉快的な寿国を最初は暖かくむかえる家族だったが、あまりの無遠慮かつ奔放な振る舞いに、しだ

いに反感を覚えるようになる。また、一人増えたことで狭い団地住いの悪夢が甦ってきた。3LDKでの新しい生活はしだいに変調をきたし始める。

危惧した勝国は悩み抜いた末、この家に祖父の為の地下室を作る事を思いつく。「それやッ！ それはグッドアイデアや」と狂喜する寿国。スコップで、シャベルで、はたまた砕岩機まで買い込んで穴掘りに精を出す勝国。騒音、振動、土埃で修羅場と化していくキッチンルーム。神経を逆撫でされる冴子、正樹、エリカ。

穴掘りも中盤にさしかかった頃、ポロリポロリと白蟻が現れた！ せっかく手に入れた新居を白蟻に食いつぶされてたまるものかと、とり憑かれたように殺虫剤を撒き、灯油をぶっかける勝国。燃え上がる炎に今度は水攻めだ。悪戦苦闘の末、ようやく白蟻を退治したのだが……。

翌日、会社においても白蟻の幻影が頭から離れない勝国は、会社を飛び出して家に取って返した。

今や完全に狂気のまなざしで砕岩機を振り回す勝国。再び家中を揺るがす轟音。水道管を突き破り、噴出する水、水、水。

家族の怒りが爆発した！ こんな状況に追いやったのは誰のせいだ！ 狂っているのは誰だ！ いよいよ始まるくんずぼぐれつの大戦争。一軒家の中でくり広げられる壮絶な破壊。そしてバイオレンス。

もうこの家族は誰にも止められない――。

6月中旬ロードショー

特別鑑賞券¥1,200 (当日一般¥1,500 学生¥1,300) 好評発売中！

国電有楽町中央口銀座側前 アートシアター 有楽シネマ (201) 3066				
平日	12:00	2:10	4:20	6:30
日・祝	11:30	1:40	3:50	6:00

歌舞伎町コマ劇場前 新宿オスカー (202) 0141				
連日	11:00	1:05	3:10	5:15
			7:20	

核戦争もブッ飛ばす！これがワシらのデス・マッチ



いま親父が危険だ！
小林よしのり
(原案・脚本)

「家族の肖像」「クレイマー、クレイマー」「普通の人々」「家族ゲーム」……。家族をテーマにした数々の名作が世に出された。それらはなかなか渋く、良質の芸術作品であった。評論家にも認められ、数々の賞を与えられ、まず傑作との評価が定まった。

しかし、秘かに心の中ではこう思っている人が居なかったか？「家族をテーマにした映画って、やっぱ小粒で、TV的で、おじん向けで、評論家好みの怠惰な凡作だよ……」。

私は石井聰互監督と画策した。もっとバワフルに、もっと過激にエンターティナーでできないのか？息つく暇もない程のサバイバル精神で、身の毛もよだつ毒を含んだ《家族》をテーマにした映画を作ってみよう。その映画は、ギャグを連射砲のように繰り出しながらもどえらく深刻で、ぞつとする程恐ろしくせきたまらなく哀しい、突破りの超悲喜劇『スペクタクル・ギャグ・ホームドラマ』になるだろうと……。

息子は受験地獄だ、校内暴力・家庭内暴力だと世間を騒がせ、娘はファッションだ、SEXだと元気がいい。祖父は頑固に長生きして、しなやかにボケつつ迷惑な存在だし、母はというと教育、浮気、売春、ゴシップに熱中して、かまびすしい。じつと耐えとるのは、父だけだ！

恐いではないか。あの真面目で、健気で、哀れな父は一体、何を考えるのだ？

今、親父が一番不気味だ！ 最も危険だ！！
そういう意味では、地震・カミナリ・火事・親父というのは、今でも生きた名言である。もし、あなたの親父が家族思いの真面目な男なら、警戒した方がいい。そのうち何か、どえらく逆噴射やらかすぞ！！

■解説

非人間的な都会の団地生活から抜け出して、小林一家が新興住宅地へ越して来た。健全で朗らかな家庭を築こうと燃える父。しかし、祖父が突然舞い込んで来たことにより一家の歯車が狂い出す。常軌を逸し始めた家族たちの壮絶な戦いが遂に開始された。

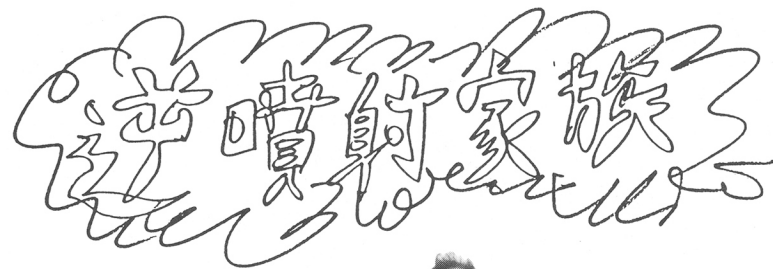
★ 家族間に憎悪は鬱積している！ 家族間に確かに殺意は存在している！ 今こそ家庭内暴力の要因を、全ての家族が認識すべき時は来た！ 第三次世界大戦が先か？ はたまた家族間最終戦争が先か？ 小林家よ、逆噴射して家族の神話を地に墮とせ！

★ 原案は漫画「東大一直線」でお馴染みの小林よしのり。その奇抜な発想とギャグのセンスは既に定評のあるところである。脚本は小林自身と、その後の仁義なき戦い『野獣刑事』などの神波史男および石井聰互の共同執筆。監督の石井聰互は「荒唐無稽とも思える物語をリアリズムで活写していきたい」と抱負を語り、新境地に挑んだ。さらに長谷川和彦が製作、高橋伴明がプロデューサーとしてスタッフに加わり、絶妙なチームワークで石井をフォロー。撮影は「ニッポン国・古屋敷村」『さらば愛しき大地』などの田村正毅が担当した。

主役の小林勝国には、流暢な英語と特異なキャラクターで今や人気絶大のDJ・小林克也。脚本を読んでふたつ返事で出演をOKしたという惚れ込みである。映画初主演。祖父・寿国には、TVに舞台上に幅広い活躍で、今再び人気急上昇している植木等。頑健な老人を豪快に演ずる。勝国の妻・芽子には、「陽暉楼」などで円熟の域に達した倍賞美津子。息子・正樹には新進劇団「第三エロチカ」の有蘭芳記、娘・エリカに期待の新人工藤夕貴が扮している。

若手監督集団「ディレクターズ・カンパニー」と国際放映、ATGの三社が提携して製作されたこの作品、邦画界ひびきの痛快ブラックコメディとして、観た者に必ずや強烈なパンチを与えるであろう。

(カラー/ビスタビジョンサイズ/1時間46分)



●お父さんも頭ぶち割れば、気狂いも直るからね……

●変態オカマ野郎一ツ

●もーオイヤーッ！ エリカ怒りましたあーッ！！

●空襲じゃあーっ！！ 空襲じゃあーっ！！



【監督プロフィール】 石井聰互 (いしせいぞむ)

1957年1月博多生まれ。高校大バニック(76.8)で一躍注目され、自ら設立したダイナマイト・プロダクションの「狂い咲きサンダーロード(80)」でアウトローの生き様を鮮烈に描き、若者に圧倒的な支持を得る。その後も「ジャッフル(81)」「爆烈都市(82)」などの話題作を連発。最近でも「アジアの逆襲(83)」というVTRおよびLPを同時発売するなど精力的に活躍中。現在ディレクターズ・カンパニーに所属。

【新人プロフィール】 小林克也 (こばやしかつや)

本名 小林克彌。1941年3月広島県生まれ。オールナイトニッポン(73)ニッポン放送「スネークマンショー」(76TBSラジオ)等のDJとしてヤングの心をつかみ人気急上昇。現在も「ベストヒットUSA」(テレビ朝日)「スポーツ天国」(フジテレビ)「ナンバーワン・ジョッキー」(文化放送)など数多くのレギュラー番組を持つ。また82年には自らナンバーワンバンドを率い、LP「もも」を発表。昨年には第2弾「東京あたり」を作製。なお5月には植木等と組んでこの映画の宣伝歌(キャニオン)を発表、続いてふたりで全国コンサートツアーを行った。

有蘭芳記 (ありぞのよしき)

本名同じ。1960年10月東京生まれ。一昨年、川村毅率いる新進劇団「第三エロチカ」に入団。昨年、舞台を見た石井聰互に見い出され「アジアの逆襲」に主演。現在同劇団に所属。

工藤夕貴 (くどうゆうき)

本名同じ。1971年1月東京生まれ。昨年、渋谷を歩いていた時、現在のプロダクションにスカウトされる。TBS「5・8・7・W54・H84」昨年10月よりザ・ビューステージ(TBSテレビ)にレギュラー出演中。ヒラタオフィス所属。

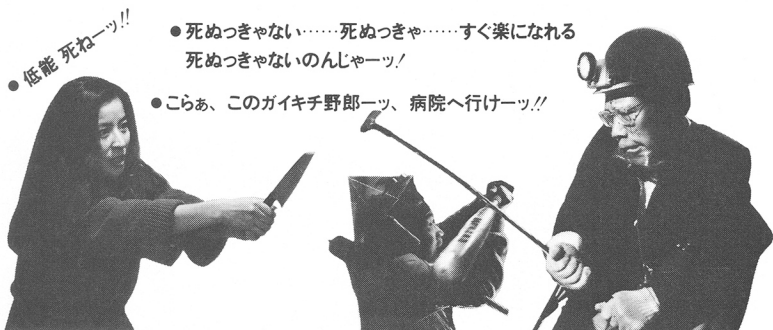
■キャスト

小林 勝国(45)……………小林 克也
小林 芽子(41)……………倍賞美津子
小林 正樹(19)……………有蘭 芳記
小林 エリカ(13)……………工藤 夕貴
小林 寿国(72)……………植木 等

■スタッフ

製作……………長谷川和彦
山根 豊次
企画……………佐々木史朗
宮坂 進
プロデューサー……………多賀 祥介
高橋 伴明
原案……………小林よしのり
脚本……………小林よしのり
神波 史男
撮影……………石井 聰互
田村 正毅
照明……………佐藤 譲
録音……………福田 伸
美術……………細石 照美
宣伝美術……………湯村 輝彦
編集……………菊地 純一
宣伝プロデュース……………浜田 萬藏
音楽……………1984
(サントラ盤/キャニオンレコード)
助監督……………米原 秀範
製作担当……………大里 俊博
宣伝歌……………ひとしとくさ
(「逆噴射・家族肖像」)
(キャニオン・レコード)

ディレクターズ・カンパニー十国際
放映株式会社+日本アート・シアター
・ギルド提携作品



●低能 死ね一ツ！！
●死ぬっきゃない……死ぬっきゃ……すぐ楽になれる
死ぬっきゃないのんじゃ一ツ！
●こらあ、このガイキチ野郎一ツ、病院へ行け一ツ！！